

新しいエネルギー社会を福島から世界へ

カーボンニュートラル（脱炭素社会）の実現が世界的な課題となる中で、温室効果ガスを排出しない再生可能エネルギーの導入がますます求められています。

福島県では、2040年頃をめどに県内エネルギー需要の100%相当以上を再生可能エネルギーで生み出すという目標を掲げ、再生可能エネルギーの導入拡大と関連産業の育成・集積に取り組んでいます。

再生可能エネルギーとは？

石油や石炭などの限りがあるエネルギーと違い、太陽光・風力・地熱など、自然の力によって補充されていくエネルギーのことです。

県土が広大で自然豊かな福島県は、この再生可能エネルギーを生産するのに適しており、特に太陽光発電の導入実績は2011年と比較して大幅に増加しました。

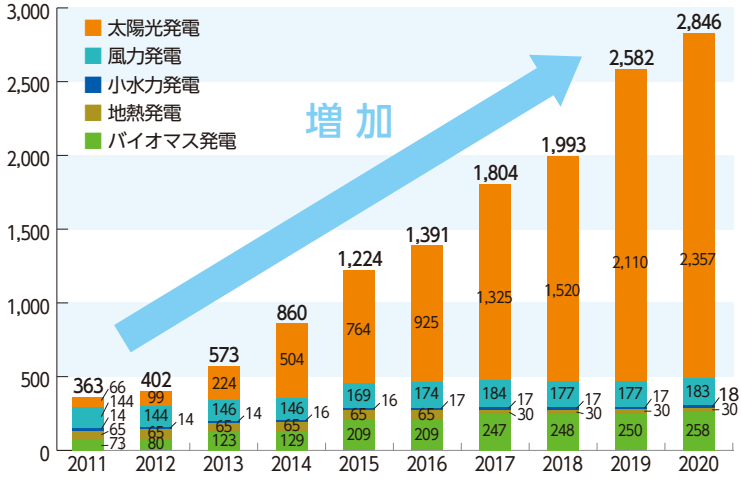
県内での導入は進んでいるの？

2020年度の県内再生可能エネルギーの導入量は、県内エネルギー需要と比べ43.4%となり、「福島県再生可能エネルギー推進ビジョン」で掲げた中間目標を達成しました。2040年頃までの導入目標100%相当以上に向けて着実に導入が進んでいます。

エネルギー種別導入実績(設備容量、大規模水力除く)

(出典：県エネルギー課)

単位：MW (千kW)

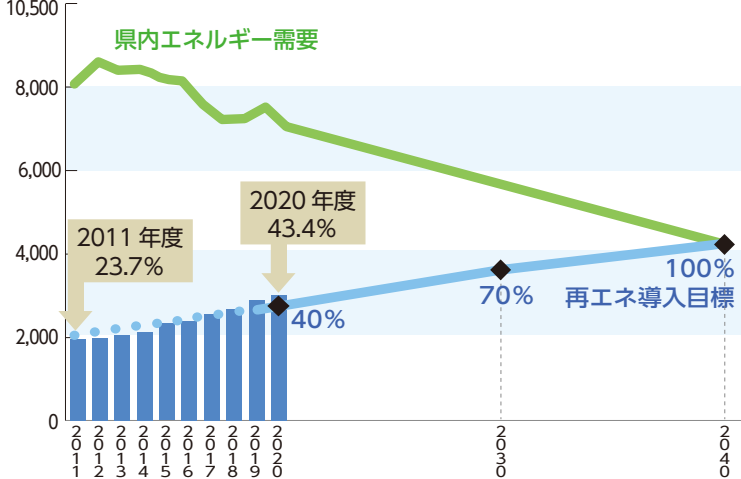


※端数の関係で、合計と各内訳が一致しない年度があります。

再生可能エネルギーの導入実績と導入目標(原油換算)

(出典：県エネルギー課)

単位：千kl



福島県は、再生可能エネルギーの飛躍的な推進を復興の大きな柱として掲げ、その導入拡大と関連産業の集積に取り組んでいます。

現在は、国、県、関係機関が一体となり、福島全域を未来の新エネルギー社会のモデル創出拠点とする「福島新エネルギー社会構想」等に基づき、再生可能エネルギーの有効活用や、環境負荷の軽減にもつなげる水素社会の実現に向けた取組を進めています。

これからも、先進的な施策に挑戦しながら、「再生可能エネルギー先駆けの地」を目指して、全力で取り組んでまいります。

知事メッセージ

Message



「再生可能エネルギー先駆けの地」実現に向けて
福島県知事 内堀 雅雄

エネルギーの力で福島を元気に！

再生可能エネルギー等の普及に向けて、県内で太陽光や水素などのさまざまな事業に取り組んでいる相良さんにお話を伺いました。



東日本大震災で感じたエネルギーの大切さ

再生可能エネルギーの普及に本腰を入れたのは、東日本大震災の年である2011年です。原子力発電所の事故により、県民の方が苦労されたので、エネルギーの力で福島県を復興させたいと思っています。

現在は、大規模太陽光発電や水素ステーションなどの事業に取り組んでいます。

関心の高まりとエネルギーのこれから

県民の皆さんの再生可能エネルギーに対する関心は年々高まって



福島市や南相馬市などで、大規模太陽光発電所（ふくしまソーラーファーム）事業を展開。

いると感じています。例えば、住宅用の太陽光発電は、今では新築住宅においては標準仕様となっている場合が多く、設置するのが当たり前になりつつあります。また、異常気象の影響もあり、非常時に使える太陽光や蓄電池への関心も高まって



2018年に運用を開始した「移動式水素ステーション」には、1日平均4～5台の燃料電池自動車が水素の充填に訪れます。

います。今後は、再生可能エネルギーをさらに普及させていくとともに、エネルギーの使用量を減らす省エネの取り組みも加速させていきたいですね。



アポログループ株式会社
代表取締役社長

さがら もとあき
相良 元草さん（福島市）

再生可能エネルギーの普及に向けた県の取り組みは？

県では、災害時の停電にも強い住宅用太陽光発電設備や蓄電池、事業所や店舗などにおける自家消費型の発電設備の導入を支援しています。

さらに、県内事業者の再生可能エネルギー事業への参入を支援するとともに、復興をけん引するため阿武隈地域における新たな送電網の整備などにも取り組んでいます。

再生可能エネルギーの導入拡大を着実に進めていくことにより、持続可能な社会づくりや福島県2050年カーボンニュートラルの実現を目指していきます。



万葉の里風力発電所（南相馬市）
（出典：株式会社南相馬サステナジー）

水素社会の実現に向けて

県では、新たなエネルギーとして「水素エネルギー」に着目し、チャレンジを進めています。

水素エネルギーとは

水素エネルギーの特徴は大きく3つあります。

- ① エネルギー利用時に二酸化炭素 (CO₂) を排出しない。
- ② 地球上のさまざまなものからつくることができる。
- ③ エネルギーを水素に換えて「貯める・運ぶ・使う」ことができる。

福島水素エネルギー研究フィールド (F H 2 R)

令和2年3月7日に浪江町に開所した、世界最大級の再エネ由来の水素製造拠点です。

つくられた水素は「あづま総合運動公園」や「Jヴィレッジ」などの定置式燃料電池にも供給されています。



(出典：NEDO)

1日あたり、燃料電池自動車約560台分の水素の製造が可能です。

水素はどのように利用されているの？

県内で導入が進んでいる「燃料電池自動車」やいわき市で東北で初めて営業路線運行が開始された「燃料電池バス」などで利用されています。

県の公用車にも導入されています！



燃料電池自動車
(出典：トヨタ自動車株式会社)



燃料電池バス
(出典：新常磐交通株式会社)

未来のまちづくりに向けた企業との連携

県では今年の6月に、トヨタ自動車株式会社などと水素を活用した新たな未来のまちづくりに向けた検討を開始しました。

今後、燃料電池のトラックやキッチンカーの運用などを通して、世界に先駆けた水素社会の実現に向けたチャレンジを進めていきます。

福島県での燃料電池トラック導入イメージ
(出典：トヨタ自動車株式会社)

